

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502440		
法人名	株式会社 深田商店		
事業所名	小倉南ケアセンター 和が家 グループホーム		
所在地	福岡県北九州市小倉南区津田1丁目5-16		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果確定日	令和2年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	令和2年10月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

事業所の理念「御高齢者が地域でいつまでも和やかに安心して暮らす為に必要な社会福祉事業」を基盤として、「ご利用者様と職員が共に明るく楽しい和が家」「ご利用者様の生活ベースに合わせた介護の実現」をグループホームの基本方針とし、利用者様及び御家族様が安心して笑顔や温もりに包まれた日々を過ごす事ができるような関わりを積極的に取り組み、日頃よりご家族様との信頼関係を深める細やかな対応と密な連絡・報告を職員一同心掛けております。

理学療法士の指導のもと個別の機能訓練を取り入れ、全体体操やレクリエーションを通しては利用者様の身体機能の維持・改善、活動的な生活に努めています。現在コロナ感染対策を第一に考え施設内にコロナを持ち込まない為の取り組みに注力し、地域の夏祭りもコロナ禍で中止になる等、活動制限が増えてきているので、施設内で出来る限り季節を感じて頂けるよう職員一同取り組んでおります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには大きな通りがあり、交通量が多いが近隣には複合型ショッピングモールやスーパーもあり、利用者と一緒に外出するには事欠かない場所に「小倉南センター和が家グループホーム」は建っている。1階には、居宅介護支援事業所と通所介護事業所が併設されており、一緒に行事をしたり地域活動を実施している。また、地域包括支援センターとのやり取りも比較的多く、空床状況の情報提供や、地域の方々との情報交換をする機会が多く、地域主催の行事に招かれて参加する機会が多いのが特徴である。また理学療法士の協力を得て、機能訓練にも力を入れている。今後はより一層、「小倉南ケアセンター和が家グループホーム」として、地域行事に協働参加して、地域に事業所の存在や役割を示して活躍が期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果						
自己	外部	項目	自己評価(なごみ)	自己評価(みやび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット理念は一年に一度見直しを行っている。カンファレンスで反省・改善点を見つけそれを踏まえた上で新しい理念を考え実践、共有に努めている。利用者が和やかに安心して暮らせることを念頭に置き、必要なことを考えては実践に取り組むようにしている	ユニット理念は一年に一度見直しを行っている。カンファレンスで反省・改善点を見つけそれを踏まえた上で新しい理念を考え実践、共有に努めている。利用者が和やかに安心して暮らせることを念頭に置き、必要なことを考えては実践に取り組むようにしている	法人理念をベースとして、各ユニットごとに前年の振り返りと、新年の目標を立てるための話し合いを行っている。3年ほど前から取り組み始め、今では職員にも意識づけが進んできた。職員からあがってきたキーワードを入れこむことで自発的な取り組みにもつながってきている。	ユニット理念に対して半年ごとの期間で目指す具体目標を立てることで、職員の具体的な行動にもつながる話し合いに深化されると、なお良いのではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の情報を定期的に会議で教えていただいている。又職員が地域主催の研修や徘徊模擬訓練等に参加したり、地域の体力測定に利用者様と参加するなどして、交流を深めていたが、現状に於いてはコロナ禍の事もあり地域との電話での情報交換程度で交流は出来ていない。	地域の情報を定期的に会議で教えていただいている。又職員が地域主催の研修や徘徊模擬訓練等に参加したり、地域の体力測定に利用者様と参加するなどして、交流を深めていたが、現状に於いてはコロナ禍の事もあり地域との電話での情報交換程度で交流は出来ていない。	近隣地区の町内会に加入しており、地域の情報は民生委員などから教えてもらっている。行事に参加することで、地域住民との触れ合いの機会ともなり刺激になっている。平時には併設のデイサービスが主体となって夏祭りやボランティアなど地域の方を招く取り組みもしていた。自主的に地域の方に向けた認知症講座も開いており、近隣のポスティングもし、家族やその知り合いを中心に参加してもらった。	認知症講座や、徘徊模擬訓練などの地域が主体となる取り組みもあるが、運営のお手伝いや関わりなどで、小倉南和が家としての存在感や認知度が高められていくことにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会議ではどのような援助を実施しているか報告している。見学者が来所された際、現状を聴き取り、考え方や支援方法の助言等を行う。認知症講座を開催し、地域の方に知識や技術を知っていただく事に努めた。現在はコロナの影響で休催している。	会議ではどのような援助を実施しているか報告している。見学者が来所された際、現状を聴き取り、考え方や支援方法の助言等を行う。認知症講座を開催し、地域の方に知識や技術を知っていただく事に努めた。現在はコロナの影響で休催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回多くの家族に参加してもらい、活動、運営、行政のお知らせ等の報告を行っている。又、半年に一度は主治医と薬剤師が会議に参加し意見を頂いている。会議を欠席された家族には議事録を送付している。会議で得た意見はカンファレンス時に意見を取り上げサービス向上に活かしている。	毎回多くの家族に参加してもらい、活動、運営、行政のお知らせ等の報告を行っている。又、半年に一度は主治医と薬剤師が会議に参加し意見を頂いている。会議を欠席された家族には議事録を送付している。会議で得た意見はカンファレンス時に意見を取り上げサービス向上に活かしている。	今年に入ってからはコロナ禍で開催休止としているが、活動報告書と日ごろの様子写真をまとめたものを全家族に郵送している。平時は家族が来やすいように日曜開催を基本としており、自治会長、民生委員、地域包括の方にも参加してもらっている。医師や薬剤師などの専門家にも来てもらうことで家族からの質問や方針の共有の場ともなり参加者にも喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議が日曜日に開催されるため市町村からの人材派遣は年1回となるが、別件等で当施設訪問時に情報提供を行い、協力関係が築けるように努めている。	運営推進会議が日曜日に開催されるため市町村からの人材派遣は年1回となるが、別件等で当施設訪問時に情報提供を行い、協力関係が築けるように努めている。	市に対しては空き情報の提供や公開の取り組みを継続して行っている。地域包括から入居の問い合わせなどを頂くこともある。併設のデイサービスや居宅介護支援事業所を通して地域包括への連絡、報告をすることも多く、そこからグループホームへの情報提供につながることもある。	地域包括だけでなく、市役所に対しても、運営推進会議の案内、情報の報告や共有などの機会をもつ検討をなされてもよいのではないだろうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のカンファレンスに於いて職員間で資料を用いた身体拘束の確認を行い記録に残している。又地域運営推進会議に於いても身体拘束に関する意見交換を行っている。年2回内部研修を実施し常日頃から拘束に意識し業務に取り組んでいる。但し玄関の施錠に関しては交通量を勘案すると未だに解錠できていない。	毎月のカンファレンスに於いて職員間で資料を用いた身体拘束の確認を行い記録に残している。又地域運営推進会議に於いても身体拘束に関する意見交換を行っている。年2回内部研修を実施し常日頃から拘束に意識し業務に取り組んでいる。但し玄関の施錠に関しては交通量を勘案すると未だに解錠できていない。	身体拘束、虐待につながらないように、職員同士で食事介助などケアのやり方を共有している。運営推進会議でも身体拘束についての話し合いの場を持ち家族にも説明している。原則身体拘束をしない方針でここ数年事例もなかった。年2回の内部研修のほか、毎月のミーティングの中でも日ごろのケアについての振り返りの機会を持っている。	

R2.10自己・外部評価(小倉南和が家)確定

自己	外部	項目	自己評価(なごみ)	自己評価(みやび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて、身体的だけでなく、何が虐待に当てはまるのか職員間で意識付けの周知徹底を行うことで、高齢者虐待を見過ごさないようにしている。まず虐待の事を優先し高齢者の想いを尊重するような意見交換に努める。	施設内研修にて、身体的だけでなく、何が虐待に当てはまるのか職員間で意識付けの周知徹底を行うことで、高齢者虐待を見過ごさないようにしている。まず虐待の事を優先し高齢者の想いを尊重するような意見交換に努める。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する書類を玄関に設置することで職員が閲覧できるようにしている。研修で学ぶ以外にも、利用者様の一人が成年後見制度を利用しており、後見人の方にも意見を頂き理解を深めるように努めている。	権利擁護に関する書類を玄関に設置することで職員が閲覧できるようにしている。研修で学ぶ以外にも、利用者様の一人が成年後見制度を利用しており、後見人の方にも意見を頂き理解を深めるように努めている。	入居前から外部の後見人を利用されている入居者がおり、プランについてのやり取りを日ごろから行っている。年間の研修計画の中に権利擁護についての内容を入れこんでおり、今年は10月に外部研修への参加も行った。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面を用いて説明を行い、疑問や不安、家族や利用者様の意向の聞き取りを行う。又改定等の際は運営推進会議に於いて報告説明実施し、変更部の同意を書面で頂いている。欠席のご家族様には面会時等に変更部の説明を行い、書面での同意を頂いている。	契約時には書面を用いて説明を行い、疑問や不安、家族や利用者様の意向の聞き取りを行う。又改定等の際は運営推進会議に於いて報告説明実施し、変更部の同意を書面で頂いている。欠席のご家族様には面会時等に変更部の説明を行い、書面での同意を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置し、表現しづらいことでも意見が言えるようにしている。食事会等も実施し職員全員が各家族様との関わりを密になれるよう心掛けている。意見や苦情を聞き取れる環境作りを徹底し、すぐにでも話し合う場を設ける事に努めている。	玄関前に意見箱を設置し、表現しづらいことでも意見が言えるようにしている。食事会等も実施し職員全員が各家族様との関わりを密になれるよう心掛けている。意見や苦情を聞き取れる環境作りを徹底し、すぐにでも話し合う場を設ける事に努めている。	意見箱が設置されており、設置場所などに工夫を凝らしているが意見を頂くことはあまりなかった。8割以上の家族が月1回以上は面会に来ており、その際に意見を聞くことが多い。敬老会時と年末に食事会を伴う家族会を設定し、ほぼ全ての家族が参加され意見も伺っている。アンケートでの意見もあがっていたが、日ごろのやり取りからも把握しており、対応についての検討もなされ、反映もされている。	意見箱の利用が進んでいないが、記入用紙を事前に配布して面会時などに投函して頂くことで、回収率を高めても良いのではないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で職員の不安や意見を聞き出す機会にしている。その場で入念に話し合いを行い周知徹底が出来るように努めている。休憩中、勤務以外でも職員との関わりは強いので素直な意見交換ができ、かつ気楽に話し合う事からより良い提案を運営に反映出来ている。	カンファレンス等で職員の不安や意見を聞き出す機会にしている。その場で入念に話し合いを行い周知徹底が出来るように努めている。休憩中、勤務以外でも職員との関わりは強いので素直な意見交換ができ、かつ気楽に話し合う事からより良い提案を運営に反映出来ている。	毎月1回カンファレンスがあり、事業所全体で開催した後にユニットに分かれて開催されている。当日の出勤者が参加し、欠席者は事前に意見を挙げて、後日議事録で共有している。ユニットの主任とケアスタッフとの個別面談の場を設け、それぞれの意見や悩みなどもヒアリングしたうえで改善などの取り組みにつなげている。ユニットごとに定める月間目標があり、主任を通して職員に意識づけしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回管理者および各個人が能力を振り返る為の面談を行い、実績を伝える他反省点・今後の課題等も聴き取り、各自が向上心を持てるよう、やりがいのある環境作りを徹底している。	年2回管理者および各個人が能力を振り返る為の面談を行い、実績を伝える他反省点・今後の課題等も聴き取り、各自が向上心を持てるよう、やりがいのある環境作りを徹底している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたっては性別や年齢、国籍を理由に採用排除は行っていない。友好的に関われる職場となっている為、全員が目標の為に協力し合いそれらに向かって業務が出来ている。各自の能力を十分に発揮できる環境整備をし他と意欲を高め合うことで自己実現の権利が保障される様に配慮している。	職員の募集や採用にあたっては性別や年齢、国籍を理由に採用排除は行っていない。友好的に関われる職場となっている為、全員が目標の為に協力し合いそれらに向かって業務が出来ている。各自の能力を十分に発揮できる環境整備をし他と意欲を高め合うことで自己実現の権利が保障される様に配慮している。	男女比は2:8程度、年齢層は20~60歳代まで幅広く、平均的に40歳代が多い。有給休暇取得も推進しており休憩時間の確保も、勤務と分けてメリハリをつけてなされている。職員の能力や意欲を生かし、利用者だけでなく職員参加型のイベントの企画や季節飾りの制作、調理などに取り組んでいる。会社からの研修案内もあり、業務としての参加もできる。	

R2.10自己・外部評価(小倉南和が家)確定

自己	外部	項目	自己評価(なごみ)	自己評価(みやび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日常的に接遇や入居者様に対する声掛けなどについて、具体的な例等を用いて、話し合いの場を持ち人権教育に取り組んでいる。また、自施設研修内にも課題を取り込んでおり、全職員が人権尊重に対する意識付けとなるよう啓発に努めている。	日常的に接遇や入居者様に対する声掛けなどについて、具体的な例等を用いて、話し合いの場を持ち人権教育に取り組んでいる。また、自施設研修内にも課題を取り込んでおり、全職員が人権尊重に対する意識付けとなるよう啓発に努めている。	年間計画をもとにした内部研修のほか、最近では外部研修でハラスメントをテーマにしたものに参加をした。認知症高齢者に対する理解を深める研修は毎月行っており、言葉遣いや対応については日々注意を払っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量は把握出来ており、質問等あれば、自ら実践し、文献を用意しては管理者とともにトレーニングを推進している。認知症研修では管理者監修のもと各職員が適宜実施し、外部研修にも参加機会を提示し提供している。	各職員の力量は把握出来ており、質問等あれば、自ら実践し、文献を用意しては管理者とともにトレーニングを推進している。認知症研修では管理者監修のもと各職員が適宜実施し、外部研修にも参加機会を提示し提供している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流機会は定期研修を通じて多くあり、顔を合わせた際には、情報交換を行っている。相互訪問の活動は少ないが交流できる環境のもと意見交換を大切に自施設のサービス向上を図る事とする。	同業者との交流機会は定期研修を通じて多くあり、顔を合わせた際には、情報交換を行っている。相互訪問の活動は少ないが交流できる環境のもと意見交換を大切に自施設のサービス向上を図る事とする。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境で生活するにあたり、側に寄り添い不安や要望を聴き取る事とする。利用者様の落ち着いた環境を整える事から出来るだけ不安を取り除けるように努めている。	慣れない環境で生活するにあたり、側に寄り添い不安や要望を聴き取る事とする。利用者様の落ち着いた環境を整える事から出来るだけ不安を取り除けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の時より「一番の不安・困っていること」の聴き取りを行う。会話を重ねていく事で、サービス導入段階でご家族様の不安を取り除ける具体的な取り組みを説明し、実施しては、信頼関係の構築につなげるよう努める。	施設見学の時より「一番の不安・困っていること」の聴き取りを行う。会話を重ねていく事で、サービス導入段階でご家族様の不安を取り除ける具体的な取り組みを説明し、実施しては、信頼関係の構築につなげるよう努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より本人やご家族様との話し合いから、グループホームで生活していく上で、必要としている支援を見極め、サービス利用も含めた対応に努める。	入居前より本人やご家族様との話し合いから、グループホームで生活していく上で、必要としている支援を見極め、サービス利用も含めた対応に努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主に茶碗拭き・洗濯物たたみ・掃除・ゴミ出し等ご自分で出来ることは行っていただき、出来ない部分をお手伝いさせて頂くように支援している。生活感も存在する為、快い反応がもらえるような声掛けを心がける。	主に茶碗拭き・洗濯物たたみ・掃除・ゴミ出し等ご自分で出来ることは行っていただき、出来ない部分をお手伝いさせて頂くように支援している。生活感も存在する為、快い反応がもらえるような声掛けを心がける。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後も密に連絡を行い、バックグラウンドを大切にした援助を軸に努める。ご家族様面会時には必ず職員が家族と本人様をつなげる会話をするように働きかけ、共に本人を支えていける様な関係作りを大切にしている。	入所後も密に連絡を行い、バックグラウンドを大切にした援助を軸に努める。ご家族様面会時には必ず職員が家族と本人様をつなげる会話をするように働きかけ、共に本人を支えていける様な関係作りを大切にしている。		

R2.10自己・外部評価(小倉南和が家)確定

自己	外部	項目	自己評価(なごみ)	自己評価(みやび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	写真の持ち込み依頼とは別に、各イベントの際、ご家族様に参加協力をし、ご家族様・ご友人との面会を通じ関係性が途切れないよう配慮している。又馴染みの美容室の方が来所される際も、ご家族や美容師との連携に努めている。	写真の持ち込み依頼とは別に、各イベントの際、ご家族様に参加協力をし、ご家族様・ご友人との面会を通じ関係性が途切れないよう配慮している。又馴染みの美容室の方が来所される際も、ご家族や美容師との連携に努めている。	家族や親族の事を忘れないように、家族写真を持ってきてもらって居室に飾ることで記憶の触発にもつながっている。桜の時期に利用者の家族宅での花見を行っていたが、コロナ禍でも枝花の寄贈を受けることで同じように楽しめた。以前は知人の来訪もあったが、今は面会の難しい時期でもあり、写真を使って思い出してもらおうようにしている。一時帰宅や外泊支援として備品の貸し出しやケアの注意点などの伝達、アドバイスもしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人一人の性格把握に努め助け合いが出来るように支援している。関わりが苦手な方、発語が困難な方においても職員が介入する事でご利用者様同士でも孤立することが無いように支援している。	ご利用者様一人一人の性格把握に努め助け合いが出来るように支援している。関わりが苦手な方、発語が困難な方においても職員が介入する事でご利用者様同士でも孤立することが無いように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族様や元担当のケアマネジャーの連絡を行い近況を伺っている。その際不安や相談など有る場合は対応し支援できるよう努めては、これまでの関係性を大切にしている。	契約終了後もご家族様や元担当のケアマネジャーの連絡を行い近況を伺っている。その際不安や相談など有る場合は対応し支援できるよう努めては、これまでの関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、反応の中からご本人の思いや希望を聴き取り、把握するように努めている。意向の表出が困難な方にはご家族様の意向を伺いご本人がグループホームで生活する中でどのように過ごされるか、本人本意で検討して頂いている。	日々の会話や表情、反応の中からご本人の思いや希望を聴き取り、把握するように努めている。意向の表出が困難な方にはご家族様の意向を伺いご本人がグループホームで生活する中でどのように過ごされるか、本人本意で検討して頂いている。	入居時には、本人からの聞き取りが難しい情報について家族から生活歴を聞き取り、記入してもらい。暫定プランの間に方向性を見極めて利用者本位のケアのあり方について検討している。以前はセンター方式を活用していたが、職員の負担もあり、現在は機能的評価を合わせたアセスメントに切り替えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時ご家族様にバックグラウンドの記入協力をして頂いている。又、座談会などレクを通じ、心地よく話合えるような環境を提供する。会話の中から生活歴等、把握し、記憶の保持が可能な方は聞き取れた内容をバックグラウンドに書き足し、バックグラウンドが厚くなる様努めている。	入所時ご家族様にバックグラウンドの記入協力をして頂いている。又、座談会などレクを通じ、心地よく話合えるような環境を提供する。会話の中から生活歴等、把握し、バックグラウンドに追記をしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能及びその日の心身状態にも注意しながら、一人一人が出来ることを考え提供し現状の把握に努めている。カンファレンス等で情報の共有を十分に行い、各利用者様のQOLに考慮した関わりを大切としている。	残存機能及びその日の心身状態にも注意しながら、一人一人が出来ることを考え提供し現状の把握に努めている。カンファレンス等で情報の共有を十分に行い、各利用者様のQOLに考慮した関わりを大切としている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々申し送りの時間や休憩など他愛のない会話の中で職員同士の意見交換を行っている事も多い。本人がより良く暮らす為にご本人様・ご家族様・必要な関係者との話し合いを持ち、支援に対する問題点を確認し現状に即した介護計画を作成している。	日々申し送りの時間や休憩など他愛のない会話の中で職員同士の意見交換を行っている事も多い。本人がより良く暮らす為にご本人様・ご家族様・必要な関係者との話し合いを持ち、支援に対する問題点を確認し現状に即した介護計画を作成している。	日々の生活日誌を記録するファイルにケアプランをとり込むことで、プラン目標を確認しながら実施のモニタリングが全職員で共有されている。担当制にして、利用者ごとの担当もいるが、プラン作成や見直しに際しては現場の職員の意見を踏まえて、計画作成担当者が主となって携わっている。理学療法士の指導の下、生活機能向上計画も作成し機能訓練にも取り組み3か月ごとのモニタリングも行っている。	

R2.10自己・外部評価(小倉南和が家)確定

自己	外部	項目	自己評価(なごみ)	自己評価(みやび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子は生活日誌に、身体状況は健康管理シートに記録し職員がケアへの実践に生かせるように活用している。又、申し送りノートを活用する事で応じた場面、効果的な対応など情報共有に役立てている。	日々の生活の様子は生活日誌に、身体状況は健康管理シートに記録し職員がケアへの実践に生かせるように活用している。又、申し送りノートを活用する事で応じた場面、効果的な対応など情報共有に役立てている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りの受診同行は基より、ご家族やご利用者様の状況に応じてその都度必要な支援やサービスを柔軟に対応できるように努めている。ケアプラン更新時のみでなく、ニーズである一声一声に合わせた対応に努める。	可能な限りの受診同行は基より、ご家族やご利用者様の状況に応じてその都度必要な支援やサービスを柔軟に対応できるように努めている。ケアプラン更新時のみでなく、ニーズである一声一声に合わせた対応に努める。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	数多くある地域資源を把握し切れていないが、グループホームで生活するにあたり活用可能な資源は引き続き活用出来るように支援していく。	数多くある地域資源を把握し切れていないが、グループホームで生活するにあたり活用可能な資源は引き続き活用出来るように支援していく。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族及びご本人の希望を取り入れ、納得が得られたかかりつけ医を受診して頂いている。かかりつけ医と本人及び家族、そして自施設を含め連携がスムーズにいこう取り組む。他院を受診する際も可能な限り同行する事で適切な医療を受けられるように努めている。	ご家族及びご本人の希望を取り入れ、納得が得られたかかりつけ医を受診して頂いている。かかりつけ医と本人及び家族、そして自施設を含め連携がスムーズにいこう取り組む。他院を受診する際も可能な限り同行する事で適切な医療を受けられるように努めている。	提携医が地域内での他医療機関との横の連携にも強い。入居後かかりつけ医になるケースが多い。診療時も状況報告のため概ね職員が通院介助しており、家族が同行する形である。提携医の場合は2週に1回の訪問診療を受けている。特変時なども提携医と速やかに情報を共有し、適切な医療、健康管理につなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師とは週1回だけでなく常日頃から情報交換を行い、特変時は看護師に対応して頂いている。又かかりつけ医の看護師とは直通電話が設立されている為密な情報共有のもと適切な治療、医療連携を図れている。	職場内の看護師とは週1回だけでなく常日頃から情報交換を行い、特変時は看護師に対応して頂く事している。又かかりつけ医の看護師とは直通電話が設立されている為密な情報共有のもと適切な治療、医療連携を図れている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早急に介護サマリーを作成し医療機関に情報提供を行っている。入院中も面会に行く機会を多くとり、医療関係者との情報交換及び現状の状態把握、関係作りに努める。	入院時は早急に介護サマリーを作成し医療機関に情報提供を行っている。入院中も面会に行く機会を多くとり、医療関係者との情報交換及び現状の状態把握、関係作りに努める。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で事業所で予め説明を行い、時期が到来する前から重度化した場合や終末期についてはご家族と十分に話し合う機会を持っている。時期は主治医によって知らされ、事業所として対応出来る事、本人の終末期のあり方に向けた家族の考えに寄り添い、統合支援の方針を説明後文書にて同意を受けている。	契約の段階で事業所で予め説明を行い、時期が到来する前から重度化した場合や終末期についてはご家族と十分に話し合う機会を持っている。時期は主治医によって知らされ、事業所として対応出来る事、本人の終末期のあり方に向けた家族の考えに寄り添い、統合支援の方針を説明後文書にて同意を受けている。	事業所の看取り指針の説明と、最期をどこで迎えたか、という希望を入居時伺うようにしており、重度化の際に改めて話し合う機会をもっている。提携医も看取りに対しての理解と経験のある方で、必要時には家族と職員が同席して説明を受けている。対応時には看取りプランも立てており、研修も継続的に行っている。希望があれば簡易ベッドを提供して、家族の宿泊も出来るようにしている。	

R2.10自己・外部評価(小倉南和が家)確定

自己	外部	項目	自己評価(なごみ)		自己評価(みやび)		外部評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃からご利用者様の急変時や事故発生に関しては、応急手当や初期対応の訓練をおこなっている。連絡事項、順などマニュアルの用意をし、全ての職員が対応できるよう取り組んでいる。	日頃からご利用者様の急変時や事故発生に関しては、応急手当や初期対応の訓練をおこなっている。連絡事項、順などマニュアルの用意をし、全ての職員が対応できるよう取り組んでいる。				
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	年2回日勤帯と夜勤帯を想定して避難訓練を実施。心肺蘇生の訓練は人形を用いて施設内看護師も参加して行う。全員に訓練が身に付くよう参加者選択にも考慮している。地域の方の避難訓練参加は無いものの、災害発生時は緊急連絡網の利用、地域のハザードマップ作成と町内会長よりアドバイスを受けている。	年2回日勤帯と夜勤帯を想定して避難訓練を実施。心肺蘇生の訓練は人形を用いて施設内看護師指導のもと行う。全員に訓練が身に付くよう参加者選択にも考慮している。地域の方の避難訓練参加は無いものの、災害発生時は緊急連絡網の利用、地域のハザードマップ作成と町内会長よりアドバイスを受けている。	コロナ禍での延期はあったが、今年も夜勤想定での訓練を事業所単独で実施した。例年だと消防署に立ち会ってもらうこともある。2F建てだが非常口が2か所と避難用スライダの設置がある。AED設置もあり、救急救命訓練もされている。備蓄物として、水、カセットコンロ、厨房での食材の余剰管理などで対応している。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の為、広報、医療連携など情報共有が必要なものに於いては契約時にサインを頂いている。又、排泄介助や入浴介助、更衣時に注意を払い利用者様の誇りや羞恥心を与えない声掛け等に努めている。	プライバシー保護の為、広報、医療連携など情報共有が必要なものに於いては契約時にサインを頂いている。又、排泄介助や入浴介助、更衣時に注意を払い利用者様の誇りや羞恥心を与えない声掛け等に努めている。	名前呼びかけなどについては、本人の希望と失礼のない対応を両立しながら、職員には「自分の身内に対するように」と、一人一人の尊重に努めている。排泄や入浴介助なども過度な監視を避け、同性介助をしたり、羞恥心と安全にも配慮した対応を心掛ける。			
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケーキ屋にお世話になりケーキバイキングと称した企画をし、メニューを作成して利用者を選んで貰っている。又、外出自粛を強いられた今、施設内に縁日を開催し、利用者自身が購入する雰囲気を感じていただくレクを実施。	ご利用者様の個々の性格、身体状況を把握し一人一人に合った伝わりやすい言葉で説明を行い意思や想いが引き出せるよう努め、自らの決定に向けて支援をしている。				
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動の声掛けをする際に利用者様の体調や気分の聴き取りを行い、利用者様のペースを大事にするよう努めている。朝の体操時に予定を伝えたり、談話を織り交ぜる事で希望を表出しやすい環境作りにも努める。	一日の日程はある程度決まっているが個人の希望やペースに配慮し危険が伴わない限りはご本人の思いを尊重する支援を行っている。				
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度訪問理美容サービスを利用者様の希望に沿って利用している。又衣類に関しては行事の時、入浴時など可能な限り利用者様に選んで貰い、乳液やクリーム、くし等でご自分で整えてもらうように促す事を心がけている。	月一回の理美容の訪問を実施。髪型についてはご本人・ご家族の希望をとり入れている。日々の着衣の選択については可能な方にはご本人に選んで頂き職員のアドバイスと共に決めている。				
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は困難な利用者様が多いが、利用者様の食事の好みや、利用者様の状態に合わせた食事提供に努めている。声かけや会話の量、団欒とした雰囲気大切に、食後の片付けは利用者様と職員が協力しながら行っている。	献立にあった食器を選択し盛り付けにも考慮し、見た目も美味しく食事が楽しみな時間となるよう努めている。食後はお盆拭き食器拭き等ご利用者様と協力しながら片付けをしている。	併設のデイサービスにある厨房によって専任の職員が昼夜の食事を準備しており、朝食と休日のみ介護職員が調理している。できる方には下ごしらえや配膳など手伝ってもらうこともある。一汁三菜とバランスも良く、栄養管理もなされている。職員も食卓を囲んで同じものを一緒に食べている。手作りおやつレクとして、2か月に1回程度、利用者と一緒に調理の機会も持っている。ご飯のお供を希望される方には、本人に選んでもらう形での提供もしている。			

R2.10自己・外部評価(小倉南和が家)確定

自己	外部	項目	自己評価(なごみ)	自己評価(みやび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がメニューを作成しているので、栄養バランスは摂れている。嚥下に応じた食事形態を提供し、水分量等は必要に応じて記録に残している。小食の方は家族より食べ慣れた物を用意してもらったり嗜好品にて対応している。	献立は栄養士により管理されている。食事は嚥下状態に合わせ形態の工夫を行い、食事量の低下がみられた場合は好きな食べ物での補強を行っている。水分摂取は毎食以外にも定期的な水分補給を行い必要あればチェックをすると共に工夫も行う。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施し、洗面台を前にご自分でケアをして頂く。磨き残しや自分でできない方には一部介助で行い、歯科医による口腔ケアマネジメントを活用しては、統一して口腔内の清潔が保てるように援助している。	毎食後口腔ケアを行い、清掃保持に努め状況を把握・情報の共有をしている。異常があった時は訪問歯科受診の提案をご家族と話し合っている。歯科医師より口腔ケアマネジメントを受け実践している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	二人介助等活かし、利用者に危険が及ばない限りトイレでの排泄の援助に努めている。個々の排泄チェック表を用いながら、排泄パターンがつかめるように支援し、失禁の少ないご利用者様には出来る限り布パンツを使用して貰えるよう促している。	排泄チェック表より排泄パターンを把握し時間毎のトイレ誘導、訴えのある方には随時対応している。残存機能を活かせるようご利用者の身体状況に合わせた介助を行いできる限りトイレで排泄できるよう支援している。	利用者ごとに24時間、1週間分が一覧できる排泄チェック表があり、全員分を管理している。トイレ排泄を原則として、それぞれのタイミングを把握して誘導している。便秘の期間も記録することで抜けのないよう処置にもつなげている。失禁の続いていた方に対して適切な誘導を行うことにより、排泄状態の改善につながった事例もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは毎日行い、水分・食事摂取量に注意しながら個々に応じた予防に取り組んでいる。又適度な運動等、腸の活性化を促すような姿勢や体操、日常生活を過ごせるように取り組んでいる。	栄養士により食物繊維が多く取れるよう献立管理されている。体操、機能訓練により十分に身体を動かして頂けるよう支援、便秘の訴えを見逃さないよう注意深く観察している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手配で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎朝のバイタル測定により体調確認後隔日での入浴を基本にしている。本人の希望や入浴の好みを理解し、満足いく工夫が出来るように支援している。重度化に伴いリフトを導入し車椅子の方も浴槽に浸かれるように支援する。	毎朝のバイタルチェック、表情等体調把握後、1日4人を目安に入浴している。個々に合った順番、お湯加減、入浴用具を使用し安全で安心かつ穏やかな時間を過ごしていただけるよう支援している。	概ね週3回程度、午前から昼過ぎの時間帯で入浴する。楽しんでもらうため、入浴剤の提供やゆずや菖蒲などの季節浴に変更することがある。吊り上げ式のリフトが備え付けられ、介助が必要な方の入浴にも対応している。無理強いのないよう、拒まれる方にも順番やタイミングなどの声掛けに配慮して働きかけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に合わせて、安眠できる環境整備を行い、安心して眠ることが出来るように支援している。高齢者の体力を考慮し、状況に応じて午睡支援をするよう心がけている。	夜間は居室内の温度、湿度、室光の調整を行い、安心して気持ちよく睡眠がとれるよう努めている。日中は体調に合わせて夜間睡眠の妨げにならない程度の午睡をとって頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理を実施しており、副作用や薬効に関する情報は記録にて共有する。薬剤師との密な連携より細粒対応等状態にあう服薬支援を実施し、特変時等早期にアドバイスを頂く事が可能である。薬の管理は三重チェックを実施している。	個々の薬について目的、副作用、用量について健康管理シート、薬状、薬一覧表により全職員が把握に努めている。服薬については三重チェックを行い、安全な服薬支援が出来ている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割を探し定着できるように支援している。コロナの為、現在は厳しいが表情や反応をくみ取り、外出等の気分転換を図るよう取り組む。一人の喜びを他の利用者も交え、全員で雰囲気共有できるように努める。	ご利用者の性格、ADL、今までの生活歴の把握を行い、食器拭きや洗濯物たたみ、裁縫などできる事や趣味を盛り込み楽しみながら張り合いのある日々を過ごして頂けるよう支援している。		



R2.10自己・外部評価(小倉南和が家)確定

自己	外部	項目	自己評価(なごみ)	自己評価(みやび)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に今はコロナ禍中という事もあり、希望に沿う外出は出来ていないが、天候を見ながらベランダでの外気浴や近所の散歩を提供するように支援している。外出自粛が収まり次第、買い物レクや外食レクを例年通り取り入れていく事を考える。	利用者の要望を把握しご家族と相談の上、外出できるよう努めているが、コロナ禍の中で遠出が難しい事も増えてきているので少しでも季節を肌で感じて頂けるよう天候を考慮し近くの散歩を支援している。	コロナ禍においては以前ほど行けなくなったが、目の前にあるコンビニや、スーパーでの買い物などを楽しんでた。例年は気候のいい時期に花見や外食など年に4、5回の全体外出レクを行っている。近隣を田圃に囲まれているため、散歩や窓外の眺めを通して季節の移り変わりを感じている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	共同生活のトラブル防止の為利用者様自身はお金の管理はしていない。要望や外出レクの際は職員同行で買い物に行き、支払いが可能な方は小口現金を渡して本人に精算して頂くよう支援を心がけている。	共同生活のトラブル防止の為利用者様自身はお金の管理はしていない。要望や外出レクの際は職員同行で買い物に行き、支払いが可能な方は小口現金を渡して本人に精算して頂くよう支援を心がけている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より要望が無い為日頃実施しないが、面会自粛もあり、家族から電話が来た際は可能な限り声が耳に届くように交代する等工夫をする。手紙は月に一度のお便りの際コメントを聞き取り代筆支援を実施している。	御本人またはご家族からの要望があれば電話での会話を楽しんで頂いている。要望があれば手紙に必要な物品を用意し書いてもらいご家族に許可を頂いた上で発送を行うようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間作りの為、壁画には季節感を演出している。又利用者本人が描いた習字や塗り絵、職員が手掛けた作品を主に掲示して生活感のある屋内作りを意識している。その時々気温・湿度、明るさの調整には注意した配慮を心がけている。	常に室温、温度計を確認しスタッフの体感に合わせる事なく調整している。また定期的に自然な風を取り入れ十分な換気に努めている。季節を感じて頂けるよう壁には手作りの壁画を四季に合わせて作成している。	ユニット内には、外出をした際の写真や貼り絵、利用者と共に作成した習字やカレンダー、職員の写真などが掲示してあり、利用者が少しでも喜んでもらえるようにしている。室内は音楽が流れている。ベランダにはプランターで植物を育てており、利用者と一緒に花の水やりをしている。ベランダに出て、日光浴をしながら音楽レクを実施しており、コロナ禍であっても居心地の良い共有空間づくりを心掛けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士でソファーに座り雑談されたり、職員が介入する事で話しやすい環境を作るように努めている。定位置はあるがその時々個性を考慮して席替えを実施。利用者が自由に着座出来るように予備の椅子を準備している。	共有フロア内の席は決まっているがソファーで寛いで頂いたり、ご利用者同士の会話が楽しくスムーズに行えるよう様子をみながらスタッフが介入する等の支援を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと入居時に思い入れのある写真や物、使い慣れた道具を持ち込んで頂いている。少ない方は生活の中で本人の好きなものや大切にしている物を職員が把握していき、居室が居心地良く感じられるような工夫に努める。	入居時に使い慣れた家具や好みの物を持ち込んで頂いている。昔の写真や家族の写真など飾り、ご本人にとって居心地のよい空間となるよう支援している。	エアコン、収納棚、テーブル、カーテン、ベッドが備え付けである。利用者によっては、入居前に使っていた家具や椅子を持ち込んでいる。テレビや家族写真、絵はがき、貼り絵等、作成した作品を居室の壁に貼って、本人の好みの居住空間にしている。居室のワックスがけは2か月に1回実施しており、居室の清潔維持には一層力を入れている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境に於いて高齢者施設であるためバリアフリー、手すりは完備されている。障害物、車椅子の移動など注意を払い利用者の動線確保・及び大きな表示や文字、わかりやすい表記にて自立した生活を促すよう努める。	環境に於いて高齢者施設であるためバリアフリー、手すりは完備されている。障害物、車椅子の移動など注意を払い利用者の動線確保・及び大きな表示や文字、わかりやすい表記にて自立した生活を促すよう努める。		